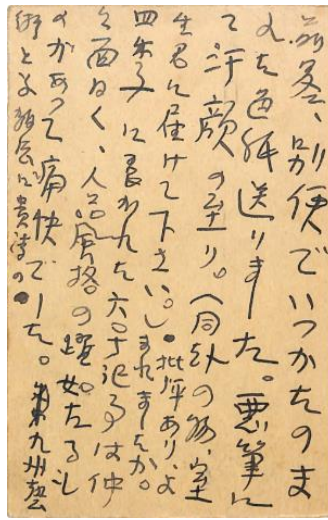
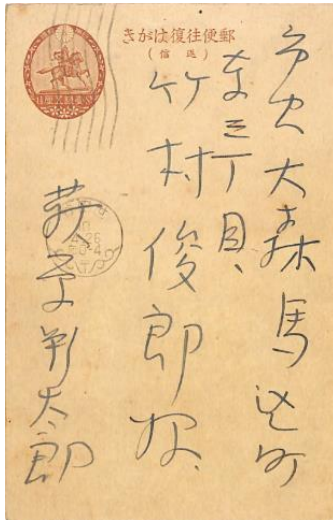


前橋文学館 新収蔵資料 萩原朔太郎書簡（竹村俊郎宛）を展示します

前橋文学館では、萩原朔太郎書簡（竹村俊郎宛）を収蔵し、展示することとなりました。この書簡では、萩原朔太郎が自身の文字について「悪筆にて汗顔の至り」と言及し、現在開催中の、萩原朔太郎生誕140年記念「悪筆。文字書体をなさず。冷汗冷汗。－萩原朔太郎と文字」展のタイトルにもなった「悪筆」が朔太郎自身の字で書かれており、大変貴重な資料です。

- 1 日時 5月2日（土）～24日（日）予定
- 2 会場 前橋文学館 2F企画展示室
- 3 資料詳細 萩原朔太郎全集（筑摩書房）第13巻 367頁掲載（492）より
萩原朔太郎書簡（葉書） 竹村俊郎宛 1918（昭和10）年4月26日（消印）
「前略、別便でいつかのまれた色紙送りました。悪筆にて汗顔の至り。（同封の物、室生君に届けて下さい。）四季に書かれた六號記事は仲々面白く、人品風格の躍如たるものがあつて痛快でした。九州藝術といふ雑誌に貴詩の批評あり、よまれましたか。」

※四季に書かれた六號記事「カメレオンの言葉－三好達治氏の批評に促されて」（『四季』昭和十年五月號）



前橋文学館ホームページ

本件に関するお問い合わせ先

文化国際課 文学館

電話 外線 / 027-235-8011（水曜休館）